

NERIMA ART MUSEUM NEWS

2020

練馬区立美術館ニュース

練馬区立美術館
NERIMA ART MUSEUM

24



CONTENTS

- 03 — 館長あいさつ
- 04 — MUSEUM CALENDAR
- 06 — 展覧会紹介
- 11 — 2018年度新収蔵品紹介
- 18 — 教育普及事業のご案内
- 20 — 公募展のご案内
- 21 — 貸出施設について
- 22 — 施設案内
- 23 — 交通案内

今年も楽しい企画がめじろ押し

成熟社会の中で文化的な価値が見直されています。日々の暮らしに潤いと豊かさをもたらすものとして、芸術や文化はこれまで以上に役割を担っていくでしょう。練馬区立美術館は、生活に一番近い地域の美術館として永く活動をしてきました。小さなお子さんからシニア層までが、一緒に美術を楽しんでいけるような美術館運営を目指してきました。美術館の庭では小さなお子さんとそのご家族が遊び、美術館の展示室では様々な年齢層の方々が展覧会をご覧になっています。今年も5本の企画展を開催していきます。様々な切り口から近、現代の美術をご紹介します、皆様に喜んでいただけるように準備しております。

展覧会では、4月26日から「シヨパン展」が開催されます。音楽家のシヨパンを楽譜や遺品を通して総合的にご紹介していきます。また、練馬区立美術館でこれまで収蔵してきたコレクションを活用した展示をする他、現代美術作家が当館の学芸員と協力してコレクションを活用した展覧会を開催します。美術作家による展示作品選びから新作の制作までご紹介する贅沢な企画です。歴史に残る作品と現代アート作品の魅力を同時に楽しむことができます。また、10月からは、ゴッホ研究や画家山下清をプロデュースした異色の精神科医である式場隆三郎の業績を紹介する「式場隆三郎展」の開催。そして、2月末からは、昭和の時代まで町の景色を形成していた電線のある風景に焦点を当てた「電線絵画」展を開催します。

また、例年継続している教育普及事業では、展覧会に関連したギャラリートーク、コンサートなど、さらに学校の鑑賞授業を受け入れるスクールプログラム、未就学児と保護者を対象とした鑑賞プログラムである「トコトコ美術館」などを開催します。

今年一年も数々の魅力的な企画展、教育普及事業を開催してまいりますので、引き続きのご愛顧をよろしくお願いいたします。

2020年4月

練馬区立美術館 館長 秋元雄史



MUSEUM CALENDAR

	2階 展示室 1	3階 展示室 2・3
2020 4		
5	<p>日本・ポーランド国交樹立100周年記念 シヨパンー200年の肖像 2020年4月26日[日]～6月28日[日]</p>	1
6		
7		
8	<p>Re construction 再構築 (仮) プレ展示：2020年7月8日[水]～8月2日[日] 本展示：2020年8月9日[日]～9月27日[日]</p>	<p>第66回 練馬区美術家協会展 2020年7月10日[金]～7月19日[日]</p>
9		2
10		
11	<p>式場隆三郎 脳室反射鏡 展 2020年10月11日[日]～12月6日[日]</p>	3
12		
2021 1	<p>35年の35点 コレクションで振り返る練馬区立美術館 (仮) 2020年12月12日[土]～2021年2月14日[日]</p>	4
2		
3	<p>電線絵画 (仮) 2021年2月28日[日]～4月18日[日]</p>	<p>練馬区小学校連合図工展 2021年1月16日[土]～21日[木]</p>
4		<p>練馬区中学校生徒作品展 2021年1月23日[土]～27日[水]</p>
		<p>練馬区小中学校連合書きぞめ展 2021年1月30日[土]～31日[日]</p> <p>第52回練馬区民美術展 2021年2月6日[土]～2月14日[日]</p>
		5

日本・ポーランド国交樹立100周年記念 シヨパン—200年の肖像

会期：4月26日[日]—6月28日[日]

2019年に、ポーランドと日本は国交100周年を迎えました。これを記念して、ポーランドが誇る世界的ピアニストで作曲家のフリデリク・シヨパン(1810～1849)の展覧会を開催します。

「ピアノの詩人」と称されるシヨパンの楽曲は、母国ポーランドや彼の才能が存分に開花したフランスは然ることながら、世界中で愛されています。本展では、シヨパンの息吹を感じられる自筆譜や手紙、遺品をはじめ、様々な美術作品や資料に基づき、シヨパンという芸術家の人間像と彼の創造した音楽を見つめます。とりわけ、現代のアーティストたちがシヨパンからインスピレーションを得て制作した数々の造形作品を一同に展覧し、多角的なシヨパン像を発見しようという試みは新しいアプローチと言えるでしょう。

本展では、現在、シヨパンの遺品・権利などを一括して保有・管理、研究をしているポーランド・ワルシャワの国立フリデリク・シヨパン研究所(NIFC)蔵の自筆譜や美術作品を中心に、ワルシャワ国立博物館所蔵やドルトレヒト美術館(オランダ)、国内美術館の油彩画など約250点を展示します。

観覧料：一般1,000円



左：アリ・シェフェール《フリデリク・シヨパンの肖像》1847年 油彩・キャンバス ドルトレヒト美術館蔵
右：フリデリク・シヨパン《「エチュードへ長調 作品10の8」自筆譜(製版用)》1833年以前 インク・紙
NIFC (Photo: The Fryderyk Chopin Institute)

練馬区立美術館開館35周年記念展 Re construction 再構築(仮)

会期：プレ展示 7月8日[水]—8月2日[日]
本展示 8月9日[日]—9月27日[日]

練馬区立美術館開館35周年を記念する展覧会第1弾。

現代の作家とともに当館の所蔵作品を再解釈し、新たな視点を提案する展覧会を開催します。参加作家は、流麻二果、近藤聡乃、富井大裕、大小島真木の4名。各作家へ当館所蔵作品を再構築した作品制作を依頼。目に見えるモチーフに関して所蔵品から紹介する章に始まり、画材の選択や個々人の視覚・色覚に左右される「色」のセクションを流、視覚から誘発される「触覚」を近藤、展示室という「空間」について富井、そしてそれらを受け取る「身体」を大小島が担当し、これらを辿りながら美術館における鑑賞全体の再構築へとつなげていきます。各作家が基点とする所蔵品は、松岡映丘《さつきまつ浜村》、鶴岡政男《物乞う人(辻楽師)》、池上秀敏《桜花雙鳩・秋草群鶉図》など。35年間の練馬区立美術館の蓄積を経て、36年目の新しい扉を開きます。また美術館の核となる所蔵品と、鑑賞者との関係を、作家の目を通して問いかける試みともなります。

加えて時節に合わせ、当館所蔵作家、大沢昌助の旧国立競技場壁画に関する資料を紹介するコーナーも設けます。

観覧料：プレ展示 無料(会場は2階展示室のみ) / 本展示 一般800円



左上：松岡映丘《さつきまつ浜村》1928年 絹本着色 練馬区立美術館蔵
左下：池上秀敏《桜花雙鳩・秋草群鶉図》1921年 絹本金地着色 練馬区立美術館蔵
右：鶴岡政男《物乞う人(辻楽師)》1950年 油彩・キャンバス 練馬区立美術館蔵

式場隆三郎 脳室反射鏡

会期：10月11日[日] — 12月6日[日]

式場隆三郎しきばりゅうさぶろう (1898～1965)は現在の新潟県五泉市に生まれ、新潟医学専門学校(現・新潟大学医学部)に学んだ精神科医です。医学生時代に白樺派に接近し、武者小路実篤、柳宗悦、岸田劉生らの知遇を得、宗悦による木喰仏の全国調査に協力。民藝運動にも同伴し、医業と芸術の交差するゴッホの精神病理学的な研究に打ち込んでいきます。医業のかたわら、民藝運動、ゴッホ論、精神病理学入門、性教育にまでわたって驚くべき健筆をふるい、生涯の著書は約200冊に及びます。

また、式場は多くの日本人にとって初めて見たゴッホ作品となるゴッホ複製画展や、「日本のゴッホ」とも呼ばれた山下清展などの事業も手がけ、幅広い大衆の関心と趣味を先導していきます。式場の極めて広範かつ啓蒙的な活動は、私たちの芸術観の形成(例えば「天才／狂気」「制作／宿命」「芸術／生活」といった観念連合)にあずかって大きな力ががありました。幅広く時代に導かれ、幅広く時代を導いた式場は、近現代日本の文化史に重要な文脈を与えたとと言えます。

本展では、式場の多彩な足跡を、約200点の作品・資料を通じてとどります。副題の“脳室反射鏡”は、可視(科学)と不可視(芸術)の両極を往還した特異な式場の個性を表す彼の著作(1939年)タイトルです。

観覧料：一般 1,000円



左：式場隆三郎肖像写真

右上：ゴッホ《ラングロア橋(アルルの跳ね橋)》複製 個人蔵(式場隆三郎旧蔵)

右下：木村莊八《『二笑亭綺譚』挿絵》1949年頃 個人蔵(式場隆三郎旧蔵)

練馬区立美術館開館35周年記念展
35年の35点
コレクションで振り返る練馬区立美術館(仮)

会期：12月12日[土] — 2021年2月14日[日]

開館35周年を記念する展覧会第2弾。

練馬区立美術館では、開館以来様々な作品収集を行い、日本の近現代の作品を中心に、現在2600件余りのコレクションが形成されています。コレクションが形作られる経緯は美術館によって様々ですが、当館では、展覧会をきっかけとして作品収集がなされたり、収集をきっかけとして展覧会を開催したり、という例が多くみられます。本展では、過去全ての展覧会をポスターなどで紹介し、同時に各年に開催された展覧会の中から1点ずつを選び、35年分の作品を展示します。1985年度の田崎廣助展から1989年のオノサトシノブ展、1993年の木村莊八展、2000年の高山良策展、2007年の賛美小舎展、2013年の牧野邦夫展など、2020年度の電線展まで、それぞれの年を象徴する1点をたどることで、練馬区立美術館の歴史を感じることができます。美術館の活動を知り、より当館のコレクションに親しんでいただくための企画となります。

観覧料：無料(会場は2階展示室のみ)



左上：田崎廣助《武蔵野の早春》1940年 油彩・キャンバス 練馬区立美術館蔵

右上：山口長男《野形》1960年 油彩・キャンバス 練馬区立美術館蔵

下：木村莊八《静物》1919年 油彩・キャンバス 練馬区立美術館蔵

電線絵画(仮)

会期：2月28日[日] — 4月18日[日]

東京都は2020年東京オリンピック・パラリンピックまでに競技場周辺を中心とした大規模な無電線化を進めていくという。オリパラ終了後の東京は私たちの望む、後世まで記憶される景色となっているのでしょうか？

街に縦横無尽に走る電線は美的景観を損ねるものと忌み嫌われ、スッキリと見通しの良い、青空が広がる整然とした町並みに誰しもが憧れを抱くことは否めません。しかし、そうした雑然観は私たちにとっては幼い頃から慣れ親しんだ故郷や都市の飾らないそのままの風景であり、それはノスタルジーと共に刻み込まれている景観です。

本展では明治から現代に至るまでの電線、電柱が果たした役割と、作品化された意味を検証し読み解いていこうとするものです。晴れやかな近代化の象徴であった電信線、“東京”が拡大していく証しとしての電線、モダン都市のシンボルである架線等、私たちと都市の記憶としての電線、電柱を美術作品の中から追っていきます。

第1章 電信線・電柱の誇りと晴れやかさ

第2章 “都市”の拡大と近代の侵食

第3章 モダン都市東京を疾走する一街を走る架線

第4章 碍子の造形

第5章 “電線ではない” “電線・電柱を描かない”ということ

観覧料：一般 1,000円



左：小林清親《常盤橋内紙幣寮之図》1880年 大判錦絵 練馬区立美術館寄託

右：小野忠重《瓦斯工場》1993年 木版画 練馬区立美術館寄託

2018年度新収蔵品紹介

作品：計54件(寄贈)

中村忠二

(なかむらちゅうじ・1898-1975)

新収蔵作品 4件

左：《練馬方面》1936年 油彩・キャンバス 50.0 × 65.2cm
右：《絵を描く子供達》1980年 モノタイプ・紙 64.0 × 52.5cm

中村善策

(なかむらぜんさく・1901-1983)

新収蔵作品 1件

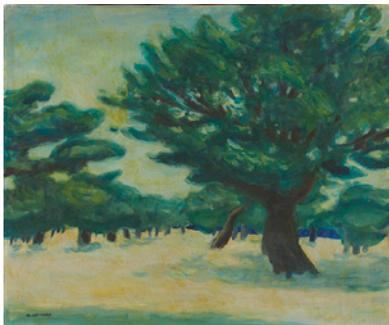


《青嵐》1955年 油彩、キャンバス 65.0 × 100.0cm

浦久保義信

(うらくぼよしのぶ・1903-1988)

新収蔵作品 1 件



《白砂青松》制作年不詳 油彩・キャンバス 50.0 × 60.5cm

麻田 浩

(あさだひろし・1931-1997)

新収蔵作品 5 件



上左：《原風景》1975年 油彩、キャンバス 150.0 × 150.0cm

上右：《地のもろもろ(夜)》1989年 油彩、キャンバス 145.0 × 228.0cm

下：《蕨児の掃宅(トリプティックのための)》1988年 油彩、キャンバス 194.0 × 259.0cm

池田龍雄

(いけだたつお・1928生)

新収蔵作品 1 件



《(題不詳)》1955年 インク、水彩・紙 28.5 × 37.5cm



《サムライ》1963年頃 油彩・キャンバス 45.8 × 52.2cm

中村 宏

(なかむらひろし・1932生)

新収蔵作品 1 件

笠井誠一

(かさいせいいち・1932生)

新収蔵作品 2 件



左：《キウイのある卓上静物》1983年 油彩・キャンバス 72.7 × 90.9cm

右：《玩具と鉛筆立てのある卓上静物》1999年 油彩・キャンバス 72.7 × 90.9



早川芳彦
(はやかわよしひこ・1896-1973)
新収蔵作品 1 件



《春》1930年代頃 絹本着彩 240.0 × 140.0cm

小野具定
(おのぐてい・1914-2000)
新収蔵作品 1 件



《早春利尻》制作年不詳 紙本着色 100.0 × 136.0cm



《すがくる鳥》1968年 紙本着色 91.0 × 116.7cm

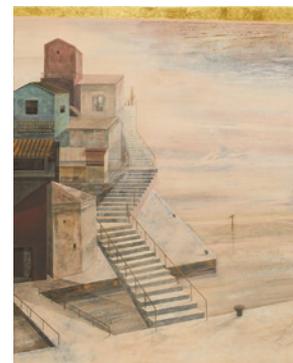
松下宣廉
(まつしたのりゆき・1946生)
新収蔵作品 1 件

奥村美佳
(おくむらみか・1974生)
新収蔵作品 2 件



左：《風渡る》2013年 紙本着彩 130.5 × 162.2 × 1.9cm

右：《小鷗》2007年 紙本着彩 162.3 × 130.0cm



吹田文明
(ふきたふみあき・1926生)
新収蔵作品 20 件



《7月14日パリ祭の夜》2004年 木版、紙 88.9 × 59.5cm

尾関立子

(おげきりつこ・1971生)

新収蔵作品 4 件



左：《RETRAINED HEAT》1996年 エッチング、アクアチント・紙 148.5 × 194.5cm

右：《UNCOIL ITSELF》1996年 エッチング、アクアチント・紙 198.7 × 148.0cm



四方田草炎

(よもだそうえん・1902-1981)

新収蔵作品 1 件



《牛》制作年不詳 鉛筆・水彩、紙 25.3 × 27.2cm

小野木学

(おのぎがく・1924-1976)

新収蔵作品 2 件



《『のんちゃん』のけいとだま』挿絵原画》1968年 水彩・コラージュ 紙19枚 30.0 × 46.0cm



朝倉 摂

(あさくらせつ・1922-2014)

新収蔵作品 8 件



左：《『群像』デッサン(1)》1950年頃 鉛筆・パステル、紙 27.0 × 38.2cm

右：《(スケッチブック)》1942年頃 鉛筆・パステル、ほか 1冊(32葉) 37.0 × 29.5cm

教育普及事業のご案内

美術館の核となる、展覧会及び所蔵品への理解を深め楽しむために、様々な入口をご用意しています。子どもから大人の方までふるってご参加ください。

※ギャラリートーク、ロビーでのコンサート・パフォーマンス以外は、ほとんどが事前申込制です。

※各事業の詳細は、なりま区報(30名以上の募集事業)および美術館ホームページに開催1ヶ月前程前から掲載します。また図書館などの区内施設にてチラシを配布しています。

＼ 展覧会を様々な角度から楽しむ /

展覧会関連事業

ギャラリートーク、実技講座・ワークショップ、講演会、コンサート・パフォーマンス、鑑賞プログラム「トコトコ美術館」
(3～6歳の未就学児+保護者対象 年3回)



ギャラリートーク

担当学芸員やゲストが展示室を回りながら展覧会についてお話しします。

コンサート

ロビーには1877年製のスタインウェイ社のピアノがあり、展覧会に合わせたコンサートが開かれます。



「トコトコ美術館」

テーマに合わせた作品鑑賞と絵本の読み聞かせ、工作をします。初めての美術館に!



実技講座

展覧会に合わせて絵画や版画、彫刻、工芸など本格的な作品作りに取り組みます。



＼ 人が集う場作り /

美術館を楽しむワークショップ

館内探検(5歳～小学2年生対象、年1回8月開催)

所蔵品カードで遊ぶ(小学生～大人対象、年1回12月開催)

おでかけ美術館(小学4～6年生対象、年1回3月開催)

「美術館をつかまえる!？」 館内探検とフロッタージュ

毎年夏休みにバックヤードの探検を行っています。フロッタージュしながら館内を巡り、採取した用紙を綴じて美術館標本として持ち帰ります。



＼ 美術館の施設及び展覧会を学校の学習に /

スクールプログラム

① 団体鑑賞 ② 施設見学 ③ 職場体験 ④ 出張プログラム

内容に関してはその都度ご相談させていただいています。

令和元年度は30校57回実施しました。

※展示替え期間及び当館主催のイベント開催日にはお断りする場合があります。



美術館サポーターの活動

現在34名がサポーターとして活動しています。

主な活動は、美術関連記事の新聞切抜き、イベントの会場受付、練馬ゆかりの作家調べなどです。

公募展のご案内

日頃の創作活動の成果を発表する場として、毎年1回「練馬区民美術展」を開催しています。11月に出品者を募集しますので、出品をご希望の方は、11月1日号(予定)のねりま区報に掲載の応募方法、または区民美術展応募チラシ、当館ホームページをご覧ください。

第52回 練馬区民美術展

会期

2021年 2月6日(土)～14日(日)

応募資格

区内在住(または在勤・在学)の15歳以上の方(中学生は不可)

募集作品について(予定)

洋画(油彩、水彩、アクリル、パステル、版画など)
日本画(水墨など)

彫刻・工芸(漆芸、陶芸、染織、和紙絵、押し花絵、切り絵など)



展示風景(第51回練馬区民美術展)

貸出施設について

美術に対する理解を深め、発展させ、さらに主体的にご参加いただくため、館内の施設を貸出しています。ご利用になる施設によって、申込方法が異なります。詳しくはお問い合わせください。

区民ギャラリー

美術作品の展示発表を目的とする個人、サークル等に貸出します。

1日を単位として、連続6日まで利用できます。(展示・撤去作業の時間を含む)

※2020年度の企画展示室の貸出期間は、12月12日(土)～12月17日(日)、および12月22日(火)～12月27日(日)の期間です。(2020年4月1日現在)

名称	面積	使用料	貸出条件
2階 一般展示室	85.5㎡	4,000円/日	
3階 企画展示室Ⅰ 企画展示室Ⅱ	200㎡ 208㎡	16,000円/日 (2室分)	企画展示室Ⅰ・Ⅱは、 両室利用が原則

創作室

美術作品の創作・研究・学習活動を目的とする個人、サークル等に貸出します。

午前・午後を単位として、1ヶ月に4枠まで利用できます。

名称	面積	定員	利用時間	使用料	貸出備品・器具など
2階 創作室	110㎡	30名	午前 10:00～13:00	1,200円	作業台、スツール(椅子)、 イーゼル、ホワイトボード、 プレス機、石膏モデル等
			午後 14:00～18:00	1,600円	

※練馬区長が認める生涯学習団体は、使用料減免制度に基づき50%減額します。



一般展示室



創作室

施設案内

開館時間 10:00～18:00（入館は17:30まで）

休館日 毎週月曜日（ただし、月曜日が祝日の場合は開館し、翌平日休館）、年末年始（12月29日～1月3日）、展示替えなどによる準備期間中

観覧料 展覧会により異なります。詳しくは各展覧会ページをご覧ください。
なお、いずれの展覧会も、中学生以下および75歳以上の方は無料でご覧いただけます。（年齢等の確認できるものを提示した場合に限る）

図録の販売 展覧会に合わせて作成した図録は、2階「図録・グッズコーナー」で販売しております。ご来館の難しい方は、通信販売の取扱いもご用意しておりますので、問い合わせください。

バリアフリー

- 当館の展示室は2階・3階にあります。館内にはエレベーターを設置しております。
- 誰でもトイレを設置しております。
- 障害をお持ちの方は、当館のご利用に限り駐車場をお貸しできます。（事前予約制）
- 館内で利用いただける、車椅子・ベビーカーを用意しております。（数に限りがあります）
- 授乳室を設置しております。

喫茶コーナー 2階ロビーにて土日祝日のみ軽食とドリンクを販売します。
※詳しくは問い合わせください。

練馬区文化振興協会友の会 会員募集！

年会費：2,500円(税込)
期間：入会月から1年間

練馬区文化振興協会が管理運営している施設の公演や展覧会などがお得に楽しめます。

特典1 情報誌を毎月郵送

入会方法

特典2 チケット10%オフ
【対象施設】練馬文化センター
大泉学園ゆめりあホール

窓口 練馬文化センター、大泉学園ゆめりあホール、石神井公園ふるさと文化館、練馬区立美術館へ。

特典3 チケット優先予約
【対象施設】練馬文化センター

郵便振込 郵便局にある振込用紙に①友の会入会希望 ②住所 ③氏名 ④電話番号 ⑤生年月日 ⑥性別を記入の上、指定の口座に2,500円をお振込みください。

特典4 展覧会にご招待
（同伴者1名まで可）
【対象施設】石神井公園ふるさと文化館
練馬区立美術館

〈払込口座記号番号〉00160-3-514280

〈加入者名〉株式会社 五十嵐商会 練馬文化センター係

特典5 会員限定イベント開催
【対象施設】石神井公園ふるさと文化館
練馬区立美術館

インターネット 協会ホームページ (<https://www.neribun.or.jp/>) の「友の会」バナーから手続きができます。2,500円をクレジットカード決済でお支払いください。

問合せ：公益財団法人練馬区文化振興協会 Tel:03-3993-3311

交通案内

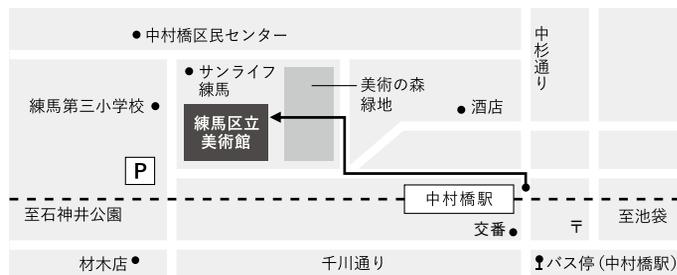
鉄道 西武池袋線「中村橋」駅下車 徒歩3分

バス 関東バス「中村橋駅」停留所下車 徒歩5分

阿佐ヶ谷駅北口 — 中村橋駅《阿01》系統終点

荻窪駅北口 — 中村橋駅《荻06》系統終点

荻窪駅北口 — 練馬駅《荻07》系統「中村橋駅」下車



※駐車場はございません。美術館周辺のコインパーキング(有料)をご利用ください。

※障害者用の駐車場については、直接お問い合わせください。

隣接する施設

貫井図書館（1階）

練馬区立美術館で開催された展覧会図録はもちろんのこと、これまでに行われた日本の近現代美術の展覧会図録や関連書籍など、美術に関連する書籍を多数取り揃えています。

美術の森緑地

美術館の前庭にあたる「練馬区立美術の森緑地」には、幻想美術動物園をコンセプトに、カラフルな動物を中心とした20種類32体の彫刻が設置されています。



〒176-0021 東京都練馬区貫井1-36-16 TEL: 03-3577-1821

<https://www.neribun.or.jp/museum/>

（公益財団法人練馬区文化振興協会が練馬区立美術館の管理運営を行っています）

練馬区立美術館ニュース 第24号

発行：練馬区立美術館 発行年月日：2020(令和2)年4月1日

印刷：山田写真製版所 デザイン：星野哲也

